

志井校区幸せまちづくり Happiness Plan 2017

住民発！

志井校区 小地域福祉活動第二次計画



志井校区社会福祉協議会

ごあいさつ

小倉南区志井校区の志井小学校は創設 140 余年の歴史を持ち、本校区は長い歴史と伝統をもつ地域であります。「志井」の呼称には「四つの井戸」が存在するとのことからきているとの文献もありますが、「志井」の「志」は「こころざし」、「井」は市井、すなわち住民、庶民を現しているともとらえられ、志井校区は「志をいただいた庶民の地域」と言えるのではないかと思います。

本地域は、旧来、農業を中心とした地域でありましたが、昭和 40 年代前半、近隣に九州最大の徳力団地が進出するなどの経緯から、北九州市のベッドタウンとしての位置づけを担うようになってきました。そして、昭和 60 年には北九州モノレールが開通し、その交通の便の好さにより多くのマンションが建設されてきています。

そのような状況で、現在では地域の農業を保護してゆくための市街地調整地域を多く有すると共に、新住民のマンション郡を抱えるという、多くの生活様式を有する庶民が生活している地域であります。

このような多様性のある地域で、住民みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくりを目指して、地域住民や公私の社会福祉関係者が協力して地域福祉活動を進めてきました。特に、北九州市で平成 5 年に開始されたふれあいネットワーク活動に積極的に参加しています。今後もこの「ふれあいネットワーク」を志井校区の重点項目として推進してまいりたいと思います。

さらに、本校区の特徴として、保育園・幼稚園から小学校・中学校・高校・高専・大学という文教関係の機関が存在することが大きな特徴であります。「東日本大震災」、「熊本地震」から学べる教訓として、地域の教育機関が連携して、防災や青少年育成等に取り組んできたことは、志井校区の特徴ある取り組みとして誇れるものです。

この第二次計画は、過去 5 年間の活動を振り返り、今後 5 年間の地域住民の「幸せまちづくり」の指針となるよう作成しました。

志井校区社会福祉協議会
会長 大迫隆典



もくじ

ごあいさつ	 1 p
-------	-----------

第 1 章 計画策定にあたって	 2 p
-----------------	-----------

- 1 計画の性格
- 2 計画の期間
- 3 計画の策定経過

第 2 章 志井校区の現状と課題	... 3 p
------------------	---------

- 1 地域社会の動向
- 2 地域の福祉課題

第 3 章 計画体系	 4 p
------------	-----------

- 1 基本理念
- 2 基本目標
- 3 実施項目（体系図）
- 4 重点実施項目

第 4 章 計画の推進	10 p
-------------	-----------

- 1 計画の承認と周知
- 2 計画を推進するための体制
- 3 第 2 期計画の策定

参考資料	11 p
------	-----------

- 1 策定委員会名簿
- 2 策定委員会での協議事項

第1章 計画策定にあたって

1 計画の性格

(1) 住民発信の行動計画

この計画は、志井校区の様々な福祉課題を解決するために、住民や民間団体が将来の見通しを持って計画的に活動しようとするための民間の行動計画です。

(2) 小地域の生活を支える計画

この計画は、志井校区に住む人たちの「生活」を支えることを活動の原点とする計画です。

(3) 北九州市及び北九州市社会福祉協議会・小倉南区社会福祉協議会と協働する計画

この計画は、北九州市及び北九州市社会福祉協議会・小倉南区社会福祉協議会の計画と連携しながら地域福祉活動を進めていく計画です。

(4) 志井校区社会福祉協議会の活動指針となる計画

この計画は、社会福祉協議会が地域福祉推進の中核的な団体としての方針や発展強化の道筋を明らかにする性格を有します。

2 計画の期間

平成 29 年度～平成 33 年度までの 5 ヶ年とします。計画の期間中、地域を取り巻く状況に大きな変化があれば、見直しを行います。

3 計画の策定経過

志井校区では、地域福祉活動に取り組んでいる関係機関・団体等からの意見を踏まえ、民間の地域福祉に関する計画を策定するため、志井校区小地域福祉活動計画策定委員会を設置しました。平成 28 年 11 月 29 日に立ち上げた同委員会において、14 名の委員により 6 回に及ぶ協議の上、志井校区小地域福祉活動計画を策定しました。(参考資料を参照)

第2章 志井校区の現状と課題

1 地域社会の動向

志井校区データ

平成28年8月現在

人 口	8, 6 5 5 人	小 学 校	志井小学校
世 帯 数	3, 2 2 8 世帯	中 学 校	志徳中学校（は企救丘校区）
高 齢 化 率	2 4. 2 %	公民館・市民センター	志井市民センター
一人暮らし高齢者数	3 5 9 世帯	地域包括支援センター	小倉南4
その他社会資源等	北九州工業高等専門学校、九州職業能力開発大学校「九州ポリテクカレッジ」常盤高等学校		

平成23年度と比べると、人口で391人増、世帯で306世帯増とマンションの増加とともに人口流入が続いています。また、高齢化率は3.9%増加し、高齢化は進んでいます。

志井校区は、小倉南区の南部に位置し、旧来の農業地域（市街地調整地域）を有するとともに、モノレール・日田彦山線沿線にあり、交通の便利さから、北九州市のベッドタウンとして多くのマンションを有する地域です。また、幼稚園から大学までの教育機関があり、文教地域としての特色もあります。

2 地域の福祉課題（及び小地域福祉活動の課題）

志井校区では平成10年よりふれあいネットワーク活動が展開されていますが、少子高齢化の影響もあり、また志井校区内の高齢化率も高いため、福祉協力員等福祉活動者の平均年齢も高く、福祉協力員1人当たりの見守り世帯も50～100世帯と、負担が大きくなってきています。そのために校区内では福祉活動者の早急な育成が求められています。

福祉活動を進めていく上での課題としては、見守りが必要な方の情報が十分に得られていないという現状があります。特に新興マンションの住民について、情報を集める必要があります。

また、近年では高齢者を対象とした消費者被害や、徘徊問題も発生しており、日頃からの見守り活動に加えて、地域行事を利用した住民への啓発活動の重要性も高まっています。

第3章 計画体系

第一次計画の振返りの結果、第二次計画の基本理念、基本目標はともに共通事項として、計画体系を作成しました。

1 基本理念

「地域の絆 “幸せ” 感じる志井のまち」

志井校区では、子どもから高齢者まで、障害のあるなしに関わらず、誰もが住み慣れたところで安心して生活できるまちにしたいと願っています。そこで「地域の絆 “幸せ” 感じる志井のまち」という言葉を計画の基本理念として、計画を推進していきます。

2 基本目標

(1) ひろめよう 福祉のこころ

福祉活動の広報啓発や子どもたちへの福祉教育を通じて、地域に福祉の風土を広げます。

(2) すすめよう 福祉の手

地域交流の場所の設置やイベントを企画して、住民間のつながりを強めていきます。

(3) ふかめよう 福祉の輪

地域住民みんなが安心して暮らせるよう公私の社会福祉関係者と支援の輪をつくり、住民の主体的参加による福祉活動をすすめます。

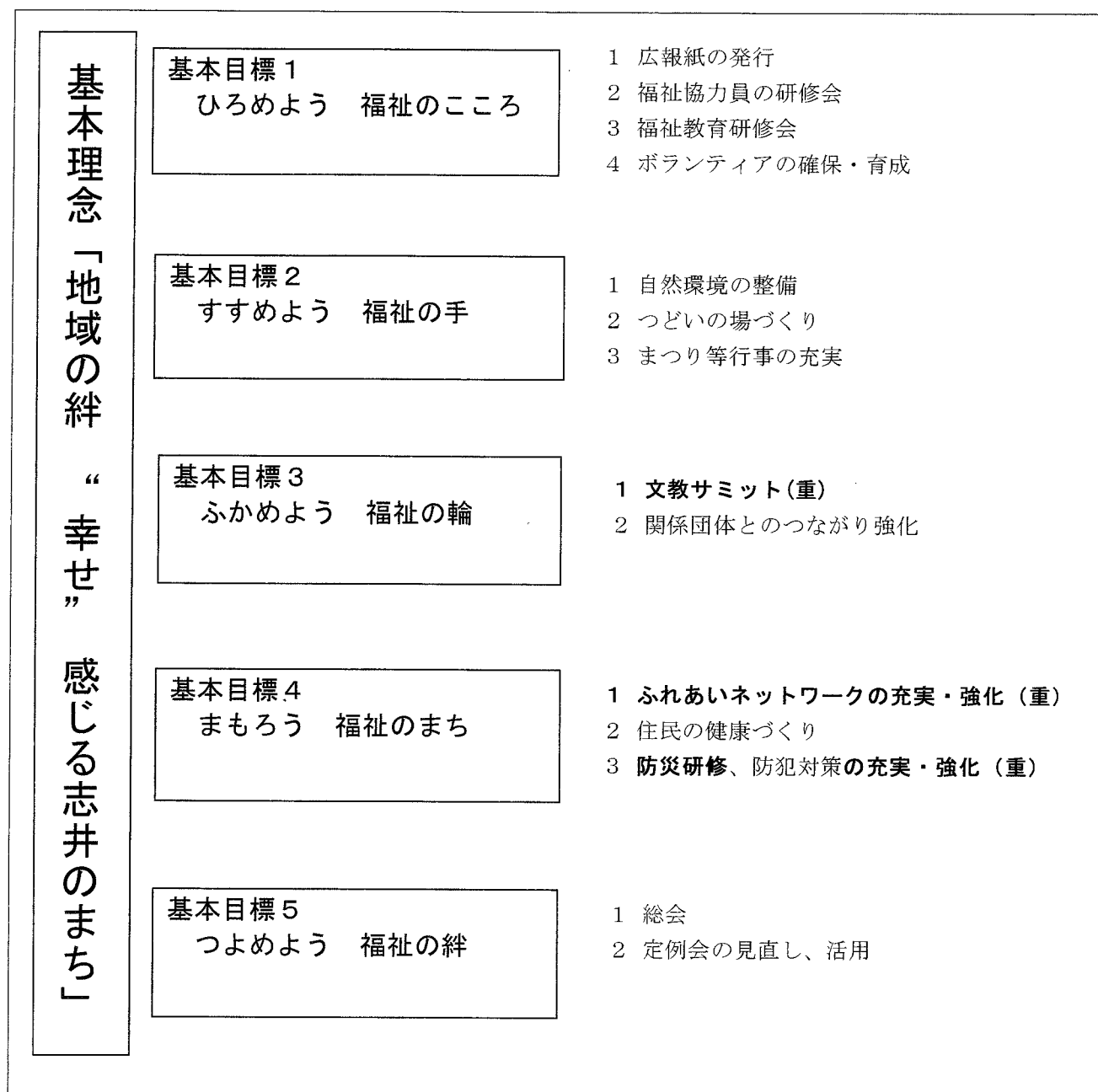
(4) まもろう 福祉の町

地域住民みんなの命が守られるよう、ふれあいネットワークの充実・健康づくり活動・防災研修などをすすめます。

(5) つよめよう 福祉の絆

活動者の募集や育成、活動財源の安定的な確保に向けた活動を通じ、地域の活動力を強化します。

3 実施項目（体系図）



4 重点実施項目

重点実施項目		文教サミットによる地域福祉活動						
1 課題背景及び現状								
志井校区には、ゆたか保育園・光楽園（保育所）・志井幼稚園・志井小学校・志徳中学校（所在地は企救丘校区）・常盤高校・北九州工業高等専門学校・九州職業能力開発大学校という初等教育・中等教育・高等教育機関の全てが立地している北九州市内でも特有の地域性があります。中学校までは、ほとんど地域住民で構成されていますが、高等教育機関においては、志井校区以外の生徒・学生がこの志井校区の地において、青春時代を過ごすことになり、この期間に地域との交流活動を行うことは、今後の人生に大きな影響を与えることになります。 青少年育成や地域の防災の拠点など、連携することにより、公共の福祉に貢献できることが多くあるものと考えられます。 北九州工業高等専門学校・常盤高校・九州職業能力開発大学校が志井校区の清掃活動や小学生との交流、市民センターの活動に参加するなどして、地域の方からも喜びの声が聞かれるようになり、全ての教育機関と地域の連携を期待する機運が高まってきました。								
2 活動の方針・目標								
教育機関と地域が連携して地域の福祉活動に貢献できるための協議会（サミット）を結成しました。具体的な取り組みを策定し、実行することが目的です。 以下に、現在かんがえられる具体的な策定項目を順不同にあげると、①交通マナーに関すること ②挨拶運動 ③地域の清掃活動への参加 ④園児・生徒・学生の交流 ⑤健康推進運動（ラジオ体操を含む） ⑥市民センター活動への参加 ⑦地域の方との交流 ⑧防災に関する事 ⑨施設利用 などがあげられます。特に、文教と防災は5年間で進展した内容は驚異であります。								
3 段階的な取り組みの年次計画								
取り組み内容		連携する機関	H29	H30	H31	H32	H33	5年後の達成目標
文教サミットの継続		全ての教育機関 自治連合会 市民センター						校区の全教育機関と社協関係団体により福祉のまちづくりを行います。
文教サミットの定例化	〈活動内容〉	全ての教育機関						校区内に爽やかな挨拶が交わされ、お互いを尊重し合う福祉地域が形成されます。
	・交通マナー推進活動 ・挨拶運動 ・清掃活動への参加 ・健康推進運動 ・園児・生徒・学生交流 ・市民センター活動の参加	自治連合会 市民センター 青少年育成会 老人会 子ども会						
広報活動		市民センター						全国的な評価を受けます。

重点実施項目	ふれあいネットワークの充実・強化						
1 課題背景及び現状							
平成10年に志井校区のふれあいネットワークが始まり、今年で20年目となります。志井校区は高齢化率が比較的低い地域ですが、今後も高齢化が進むことは間違いなく、今からそのための対策をとっていく必要があります。志井校区はマンションも多く、住民同士の交流の弱さ、自治会未加入、見守りができないといった課題があるため、ふれあいネットワークをさらに充実・強化させていきます。							
2 活動の方針・目標							
〈5年後の目標〉 校区の町内会単位で、ふれあいネットワーク＝要支援者を見守るシステムの認知度を十分にいきわたらせます。住民から相談があった場合は、組長、町内会長がふれあいネットワークの存在・内容について認識している事が重要です。活動の活発化も課題であります。住民が、自分が暮らしているまちにこのような組織、体制、活動があるということを知っているということが大切であり、そのための広報や、福祉協力員の活動、他団体との連携を少しずつ深めながら活動を充実させていきます。 そのためには、まず、広報・福祉協力員の研修を充実させ、民児協など関係団体との協力体制を調える。要支援者の把握も必要であり、マンション住民との関係づくりも改善していきます。 また、住民主体のサロン活動を進め、誰でも参加できる身近な居場所づくりを進め、地域住民の絆づくりの活動を広げていきます。							
3 段階的な取り組みの年次計画							
取り組み内容	連携する機関	H29	H30	H31	H32	H33	5年後の達成目標
要支援者、見守り世帯の把握	民児協 自治会 老人会 行政	・要支援者の調査 ・見守り活動 ・町内会加入促進					要支援者（見守り世帯）を100%把握します。 マンションとの顔の見える関係づくりを行います。
連絡調整会議の充実	まち協 民児協 老人会 自治会 区社協 行政 市民センター	・ H29 校区連絡調整会議（通年） ・ H29～ 校区 " （7回/年） ・ H29～ ブロック会議（3回/年）					校区全体連絡調整会議開催は、ブロック会議を兼務とし、全活動者が参加します。
広報紙の発行	自治会 民児協 区社協 市民センター	・ 定期的な広報編集会議 ・ 市政だよりと同時期に配付					H29⇒4回/年

ホームページでの 広報	市・区社協 市民センター						ホームページの 内容が充実し半 年毎に校区で、 更新をおこない ます。
福祉協力員の 研修・人材育成	市・区社協 市民センター						福祉協力員を 50～100 世帯に 1 名確保し 3 0 0 世帯ごとにリ ーダーを 1 名養 成・選出して活 動者の資質向上 を図ります。
活動点検・評価	小地域福祉活動 計画推進委員会						委員会により、 点検・評価を行 います。

重点実施項目		防災研修の充実・強化					
1 課題背景及び現状							
想定を超えた災害が頻発しています。志井校区では、一人も犠牲者を出さないために防災訓練を実施します。今までしたことのない内容で想定を超えた規模での訓練を展開していきます。その際、福祉救援体制も組織化します。地震、豪雨、土砂災害等いつ来るか分からない災害に対応する訓練を重ねるに従い、本当の絆が育っていきます。 防災会議を立ち上げ 1 防災活動は研修、会議、避難訓練ともに軌道に乗せました。 2 校区の各町内会は基礎力を大いに上げ、実力をつけました。 3 文教は、職員の参加から、学生の参加へと大きく発展する段階に入りました。							
2 活動の方針・目標							
今後は、これまでの成果を活かし 1 防災活動は、第二次計画の平成33年度までさらに充実させます。 2 防災研修は、5か年計画を企画します。							
3 段階的な取り組みの年次計画							
取り組み内容	連携する機関	H29	H30	H31	H32	H33	5年後の達成目標
防災研修(5回/年) 防災会議 避難訓練(1回/年) ※防災研修に含む 福祉救援体制の確立	自治連合会 民児協 福祉協力員 老人会 行政・消防 介護施設 市民センター						第一次計画以上の進捗
広報活動	自治連合会 市民センター						全国的な評価を受けます。

第4章 計画の推進

1 地域への計画の承認と周知

- ① 校(地)区社会福祉協議会総会等を通じた社会福祉協議会活動者への計画の承認と周知
 - ② 計画の実施項目を進めていく上での関係機関・団体への周知・協力依頼
 - ③ 計画書概要版の配布等を通じた校(地)区住民への周知
- 等、計画を推進していくために、計画の広報活動を行います。

2 計画を推進するための体制

(1) 小地域福祉活動計画推進委員会の設置

計画を推進していくために、志井校区小地域福祉活動計画推進委員会を設置し、計画の進行管理を行います。

- ① 関係機関・団体との連携
- ② 計画内容の具体的な実施方法
- ③ 進行管理の実施

等について、委員会では協議を進めていきます。

(2) 計画の進行管理

志井校区小地域福祉活動計画推進委員会を年3回程度開催します（当年度の事業推進の確認、年度内における中間確認、次年度の事業確認、また必要に応じて開催）。委員会では、PLAN（計画立案）DO（実行）CHECK（点検・評価）ACT（改善）というPDCAのサイクルを回しながら、計画内の各実施項目の進捗状況を把握し、うまく進行していない場合には、その原因を明らかにし、問題への対策を立て、その対応策を実施します。

(3) 計画の評価

計画期間の中間時点では計画全体の間見直しを、最終年度には総括評価を行います。

3 第三次計画の策定

第二次計画の推進状況を踏まえて、第三次計画の策定期（計画第4～5カ年度）には新しく第三次計画策定委員会を設置し、計画策定に向けて協議を進めていきます。

《志井校区小地域福祉活動計画策定委員会委員名簿》

	氏 名	所属団体	役 職	備 考
1	大 迫 隆 典	志井校区社会福祉協議会	会長	委員長
2	高 森 茂 弘	〃	副会長	
3	國 政 一 代	〃	副会長	
4	三 谷 茂 男	〃	副会長	
5	緒 方 幸 一	〃	会計	
6	大 森 福 己	〃	事務局	
7	稲 月 道 子	〃	事務局	
8	入 江 司	桜ヶ丘第一町内会	会長	
9	原 田 孝 一	志井地区民生委員児童委員協議会	地区会長	
10	秦 律 子	〃	副地区会長	
11	船 倉 利喜雄	志井校区老人クラブ連合会	会長	
12	松 浦 由美子	桜ヶ丘第一町内会老人会	会長	
13	石 丸 文 子	福祉協力員		
14	脇 坂 匡 昭	志井小学校PTA	会長	

《志井校区小地域福祉活動計画策定委員会での協議事項》

回	開催日	主な協議事項
1	平成28年11月29日	策定小委員会で今後のすすめ方について協議 1 委員長あいさつ 2 策定委員の協議 3 区社協よりこれからのすすめ方の説明
2	平成28年12月10日	策定小委員会で第二次計画の骨子検討
3	平成28年12月20日	策定小委員会で第二次計画の決定
4	平成29年1月18日	策定委員会で第二次計画の検討
5	平成29年2月17日	社協定例会で第二次計画の検討
6	平成29年3月10日	社協定例会で第二次計画の承認